

# 健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成29年1月発行

第174号

## 過敏性肺炎（肺臓炎）という病気を知っていますか？

大熊内科医院 院長 大熊達義

今、テレビでは俳優の西田敏行が肺炎球菌の宣伝を行っています。このような一般的な肺炎は細菌(ばい菌)やウイルスなどの病原体が肺にある小さな袋状の部分(肺胞)に感染することで起きる炎症です。一方今回のテーマは過敏性肺炎(肺臓炎)とは、それ自体病原菌や毒性を持たないカビや、動物性蛋白質などの有機物、或いは化学物質(抗がん剤、抗リウマチ薬、漢方薬、抗生物質、解熱鎮痛剤などの薬剤を含む)や金属など(抗原と言う)を繰り返し吸引や摂取する事により肺が過剰反応を起こす(感染される)ようになり、肺にアレルギー性の炎症が引き起こされる病気です。最近では、なめこ、椎茸、エリンギ、シメジなどのキノコ栽培従事者の過敏性肺炎の急増も報告されており、また、入れ墨をした人や、金管楽器の演奏者の過敏性肺炎の報告もあります。

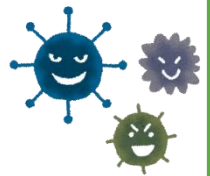
過敏性肺炎の症状は咳や発熱、息苦しさ、だるさ、喘息などが主です。基本的に抗原の多くは患者さんの職場や自宅に潜んでいる為、その環境から離れると症状が軽快・消失し、再びその環境に戻ると悪化するのが常です。この状態が続くと、肺に線維化と云われる不可逆的な変化が生じ、抗原に晒されていなくても慢性的な咳や呼吸困難感に悩まされるようになります。

過敏性肺炎のX線検査や胸部CT検査では、肺全体に「すりガラス」様の淡い陰影がみられます。ただ、過敏性肺炎の診断は難しく、専門医でも見逃されることがあるので、発熱や咳の症状が長く続く時には早めに医師の診察を受ける事が一番大事です。

過敏性肺炎の治療の基本は原因の抗原を避けることで、転職や自宅の改築などが必要になることもしばしばあります。症状がひどい時は入院してステロイド剤という薬による治療を行います。

### 「当地域でもよく見られる過敏性肺炎」

- 1.夏型過敏性肺炎：**過敏性肺炎の中では圧倒的に多いのですが、秋田県や岩手県以北には稀な、高温多湿な夏季に発症し易く、多湿な古い家屋を好むトリコスポロンというカビが抗原の過敏性肺炎。
- 2.鳥飼病：**オームやインコ、鳩などの鳥類を飼育している人やその周囲で暮らして人に発症。抗原は鳥類の排泄物に含まれる蛋白質といわれています。
- 3.職業性の過敏性肺炎：**各種のキノコ栽培業者や従事する人がキノコ胞子を吸入して生じる過敏性肺炎や、ポリウレタンの原料であるイソシアネートを吸入する事によって発症する過敏性肺炎。
- 4.換気装置肺炎（空調肺、加湿器肺）：**掃除をしていないエアコン（空調）や加湿器に生じたカビ類を長い期間吸い込むことによって発症します。



この他の過敏性肺炎には、酪農家に見られる干し草の中の好熱性放線菌(カビ)が抗原の農夫肺があります。過敏性肺炎は頻度の多い疾患ではありませんが、咳や熱が長く続く時には是非早めの受診をして下さい。